

TMT 推進小委員会(科学諮問委員会)報告

- 春の総会以降、6/19 に拡大小委員会を開催した。可視多天体分光器WFOSの設計見直し(マルチスリット vs. ファイバー)に関し、ファイバー方式(広視野、多天体性)により大きなメリットのあるサイエンスケースの観点から、宇宙論(大栗)、銀河考古学(千葉)、銀河進化(小野(大内))、銀河間ガストモグラフィ(鈴木(Lee))の各分野について講演を依頼し、議論を行った。銀河考古学とトモグラフィについてはファイバー方式で実現する天体数は観測実行において十分なゲインとなりうることが認識された。遠方銀河研究の観点からはファイバー方式で限界等級が浅くなることへの懸念が示された。この点について定量的に評価をするために、ETCを用いた観測シミュレーションを通じた検討を行い、報告をまとめ、次回10/2に予定される第1回のTMT科学諮問委員会で議論し、日本のコミュニティの方向性を議論する予定である。
- WFOSについてはTMT-SACのサブ委員会で継続的に議論を行っており、9/13, 9/14 の TMT-SAC において中間報告がなされた。最終的に10/11, 10/12のTMT-SACにてSACとしての最終報告が取りまとめられる予定である。
- TMT から公募がかかった次期観測機能に関する白書について、8件の提案があり、現在TMT-SACにおいてレビューが行われている。
- TMT Science Forum は12/10-12@Pasadenaの予定であり、2020 US decadalに向けて、TMT+GMTによるKey Science Programの構築に向けた議論が中心となる予定である。US側での検討グループ構成が進んでいる。大規模プログラムを考えたい分野の方はぜひ参加を検討して欲しい。